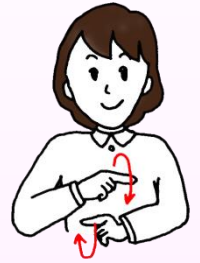


平成 30 年度県立高等学校・県立中等教育学校における

# 手話に関する 取組事例集



高校教育課  
令和元年 6 月

## はじめに

共生社会の実現を目ざして、平成 27 年 4 月 1 日に神奈川県手話言語条例が施行されました。

この条例は、ろう者とろう者以外の者が、お互いの人権を尊重して意思疎通を行いながら共生することのできる地域社会を実現するため、手話の普及等に関する基本理念を定め、県の責務や県民、事業者の役割を明らかにし、並びに手話の普及に関する施策の総合的かつ計画的な推進を図るために定められています。そして、県の責務として手話の普及並びに、手話に関する教育及び学習の振興等を行い、手話を使用しやすい環境を整備すること、また、県民の役割として、手話に対する理解を深めるよう、努めることが求められています。

その趣旨に則って、平成 28 年度から平成 32 年度の 5 年間を見据えて「神奈川県手話推進計画」が策定され、各学校においても、様々な手話に対する理解を深める取組が進んでおります。

本事例集は、平成 30 年 5 月の「手話の取組強化月間」等を中心に資料を提供していただいた学校の協力のもとに作成し、今回で 4 集目になります。

今後も、本事例集等を参考に、各学校の実態に応じて手話に関する積極的な取組の推進をお願いいたします。

# もくじ

☆手話のあいさつ	1
----------	---

## ☆授業での取組

1 横浜栄高等学校 総合的な学習の時間	2
2 秦野曽屋高等学校 芸術・「音楽Ⅰ」	4

## ☆生徒会活動での取組

1 平塚工科高等学校 「朝の手話あいさつ」	5
2 小田原高等学校 生徒総会で手話通訳	6

## ☆学校行事での取組

1 川崎高等学校 入学式・学年集会・部活紹介で手話ソング	7
------------------------------	---

## ☆部活動の取組

1 平塚商業高等学校 平塚ろう学校の生徒と合同練習	8
---------------------------	---

## ☆掲示物の工夫

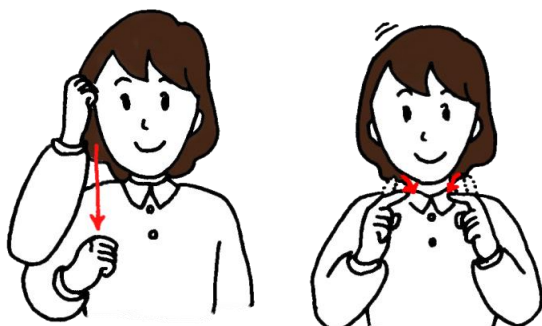
1 希望ヶ丘高等学校 保健室前へのポスター掲示	9
2 二宮高等学校 図書館の活用	10

## ☆その他

1 厚木東高等学校 朝と帰りのホームルームで手話を習得	11
2 深沢高等学校 聴覚障害者福祉センターへの見学	12
3 山北高等学校 職員研修で手話を教授	13

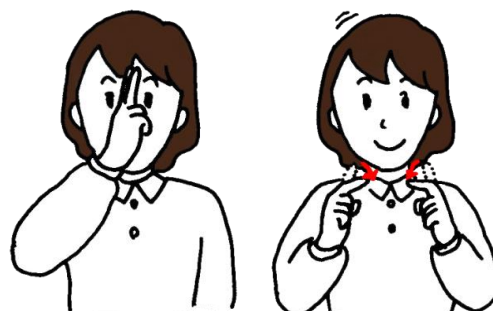
# 手話のあいさつ

おはよう



「朝」という手話（右手のこぶしを下に下ろす）と「あいさつ」という手話（人差し指を折り曲げる）をあわせます。

こんにちは



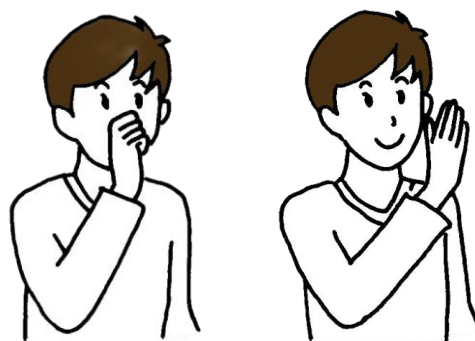
「昼」という手話（指で12時を表す）と「あいさつ」という手話（人差し指を折り曲げる）をあわせます。

ありがとう



左手の手のひらは下向き、右手で一回切るようにします。

よろしくおねがいします



右手のにぎりこぶしを鼻にあて、軽く前を出して、手を開き、前に少し出します。

テーマ(活動の目的)：手話を実際に行うことで、手話やろう者に対する理解を深める。

- 1 実施回数 1回
- 2 対象者 1年次生
- 3 指導者(教諭・外部講師等) 本校教員
- 4 実施内容
  - ・体育館で「福祉講演会」を実施した。福祉全般の話をした後、手話ができる本校教員が基本的な挨拶から、簡単な会話を生徒に伝えて一緒に練習した。
- 5 生徒の感想
  - ・初めて手話をやったのでけっこう難しかった。
  - ・もっとできるようになりたい。
- 6 その他 <成果・課題>
  - 成果 手話に対する興味・関心を高めることができた。
  - 課題 いかに継続していくかが課題である。

## 手話に親しむ



私は  
横浜栄高校の生徒です。



私は / 横浜 / 栄 / 高校の /  
生徒 / です。

手話で歌おう  
It's a small world



# 手話言語条例

平成27年4月1日～

この条例は、**手話が**ろう者の意思疎通及び情報の取得又は利用のための手段としての**言語である**との認識に基づき、手話の普及等（※）に関し基本理念を定め、県の債務や県民及び事業者の役割を明らかにするとともに、手話の普及等に関する施策の総合的かつ計画的な推進に必要な基本的条項を定め、もって**ろう者とろう者以外の者が共生することのできる地域社会を実現すること**を**目的**とする。  
手話の普及等は、ろう者とろう者以外の者が相互に、その人格と個性を尊重し合いながら共生することのできる地域社会の実現のために、**意思疎通や情報の取得又は利用の手段として必要な言語である**ことを**県民の理解の下**に、推進されなければならない。

# 共に生きる社会

## 手話を仕事にする

**手話ができる**

**看護師・薬剤師**  
**+ 保育士・先生**  
**販売員・営業**

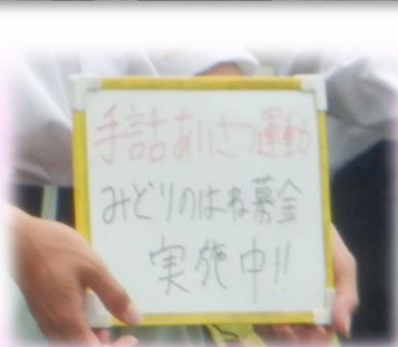
テーマ(活動の目的)：手話を必要としている人の気持ちを想い、学習に取り組む。

- 1 実施回数 週1回授業(6回分)
- 2 対象者 1年生 120名 (「音楽Ⅰ」の履修者)
- 3 指導者 「音楽Ⅰ」担当教諭
- 4 実施内容
  - ・「世界で一つだけの花」を手話を交えて歌う
- 5 題材目標
  - ・手話を体験する。
  - ・聴覚に障害を持つ人にも音楽のメッセージを伝える。
- 6 評価の観点
  - 〔音楽への関心・意欲・態度〕歌と手話の両方に楽しく取り組んでいる。
  - 〔音楽表現の創意と工夫〕音楽に合わせた二人の手話の動きがそろっている。
  - 〔音楽表現の技能〕歌詞に関する手話を理解している。
- 7 生徒の感想
  - ・身体を使いながら歌詞を表現し歌うので楽しく授業に取り組むことができた。
  - ・音楽の授業で手話も覚えることができてよかった。
  - ・他の歌でも取り組みたい。他の手話を覚えることができそう。
- 8 その他 <成果・課題>
  - 成果 生徒が手話に関心を持つようになったことが大きな成果である。
  - 課題 今後学年全体で取り組めることが理想である。

テーマ(活動の目的)：生徒の自主的な手話あいさつ運動を広げ、明るく笑顔のある学校づくりを推進する

- 1 実施回数 6回
- 2 対象者 全校生徒
- 3 指導者 教諭(教科外グループ)
- 4 実施内容
  - ・LHRの時間を利用し、社会福祉委員会生徒が、各クラスで手話による挨拶をレクチャーした。後日、登校時間に合わせて生徒会、社会福祉委員会の生徒による「朝の手話あいさつ」を正門付近で行った。
- 5 生徒の感想
  - ・徒歩で登校する生徒は手話で挨拶を返してくれることもあった。
  - ・自転車通学の生徒は手話で挨拶を返すのが難しい。
- 6 その他 <成果・課題>
  - 成果** 日を追うごとに、登校時に手話であいさつを返してくる生徒が増え、一定の成果は実感できた。
  - 課題** 自転車で通学してくる生徒にも参加してもらえるような取り組みにしていく必要がある。

## 手話を使ったあいさつ運動





テーマ：生徒会行事で生徒自らが手話通訳を行うことによって、手話に親しみ、必要性を体感し、積極的に手話を使って人と関わろうとする態度を育てる。

1 実施回数 3回

2 対象者 全校生徒

3 指導者 教諭 松本文夫（生徒支援グループ） 手話サークル「たんぽぽ」

4 実施内容

- ・生徒総会や文化祭開閉会式を、生徒たちが自ら手話通訳することを目的とし、まず地域の手話サークル「たんぽぽ」の方複数を講師として招き、生徒会本部役員及び文化祭実行委員の生徒が手話を学ぶための講習を学校において開いた。全3回の講習を約30人の生徒が、手話の基本さらに生徒会等学校行事時活用のための手話を学び、実際にできるようになるまで練習をした。
- ・5月に行われた生徒総会において、全校生徒の前で、司会進行を手話で同時通訳した。
- ・文化祭の開会式、閉会式の司会を手話で通訳した。

5 生徒の感想

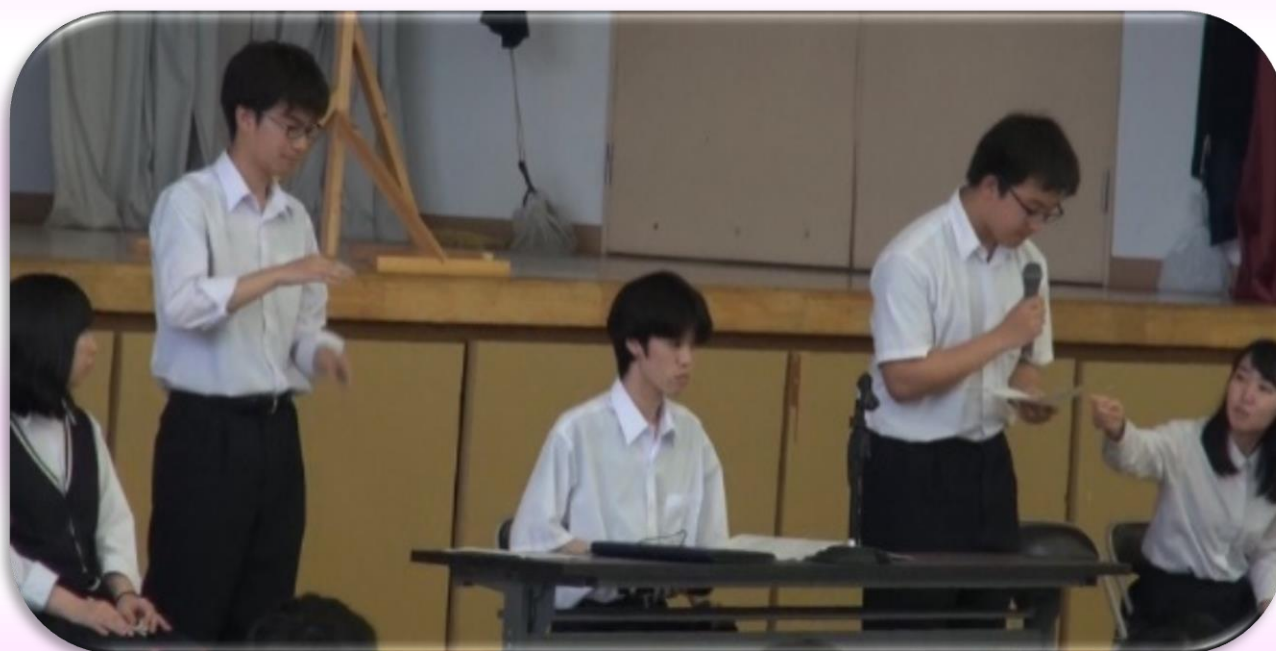
- ・みんなで学ぶことは楽しかった。
- ・自分の名前から学び始めたので、手話を身近に感じた。
- ・全校生徒の前で手話を行うのは緊張したが、何人かでリハーサルするなどして取り組んだので、学んだ成果を出せたと思う。

6 その他 <成果・課題>

**成果** 全校生徒の前で生徒自ら手話通訳を行ったため、全生徒が手話を身近に感じた。

**課題** 手話の講座では、生徒会の生徒同士が互いに手話で会話するなど、実践的な学びができた。また文化祭など生徒主体の行事を手話で通訳することで、手話の身近さを全校生徒が実感することができた。ただ手話を学んだ約30人の生徒会生徒の中で、実際に手話が必要とする高校生、一般の人と接したことがある生徒はおらず、実生活での必要性を体感することはできなかったと感じる。今後は積極的にろう学校の生徒などと交流する機会を設け、その必要性を感得し、自ら進んで手話で人と関わろうとする態度を育てていく必要がある。

## 生徒による手話通訳



テーマ(活動の目的)：手話を身近に！

- 1 実施回数 計3回
- 2 対象生徒 1年生
- 3 指導者(教諭・外部講師等) 部活動インストラクター、教諭(ボランティア部顧問)
- 4 実施内容
  - ・入学式、学年集会において、校歌披露の際にボランティア部・生徒会の生徒が、手話で歌詞を披露した。
  - ・新入生対象の部活動紹介において、ボランティア部は、手話ソングを2～3曲ほど披露した。流行りのJポップの曲を手話で行い、手話の広がりを紹介した。
- 5 生徒の感想
  - ・流行りの曲が手話でも表現できることに驚いた。
  - ・自分も手話を習いたいと思った。
- 8 その他 <成果・課題>
  - 成果** 流行りのJポップの曲を手話で行い、多くの生徒に手話の魅力を伝えることができた。
  - 課題** ボランティア部・生徒会が披露する形から、全校生徒が参加できる形に発展させる。

## 手話ソングの披露



## 部活動

1

## 平塚商業高等学校 「平塚ろう学校の生徒と合同練習」

テーマ(活動の目的)：ろう学校生徒と合同チームを組み、練習や試合を通じて手話への理解を深めるとともに、共生社会に対する意識を高める。

- 1 実施回数 女子バレーボール部は週5日、軟式野球部は週2日
- 2 対象者 女子バレーボール部員4名、軟式野球部6名、平塚ろう学校生徒5名
- 3 指導者 女子バレーボール部 波多野総括教諭・相原教諭  
軟式野球部 亀山教諭・高橋教諭・武藤総括教諭・北野教諭・柴田教諭
- 4 実施内容
  - ・ 平塚商業高等学校と平塚ろう学校で合同チームを組み、練習や試合に参加した。
  - ・ 女子バレーボール部顧問が、朝の打ち合わせにおいて、手話を用いた報告を行った。
- 5 生徒の感想
  - ・ 試合・練習を通じて、互いにコミュニケーションがとれるようになった。
  - ・ 全員が試合に出られることを感謝している。
- 6 その他 <成果・課題>
  - 成果** 女子バレーボール部は試合中に選手間で手話会話ができるようになってきている。
  - 課題** 軟式野球部は、積極的にコミュニケーションがとれるようになるために、手話の学習をもう少し取り入れていきたいと考えている。

# ろう学校の生徒と合同練習

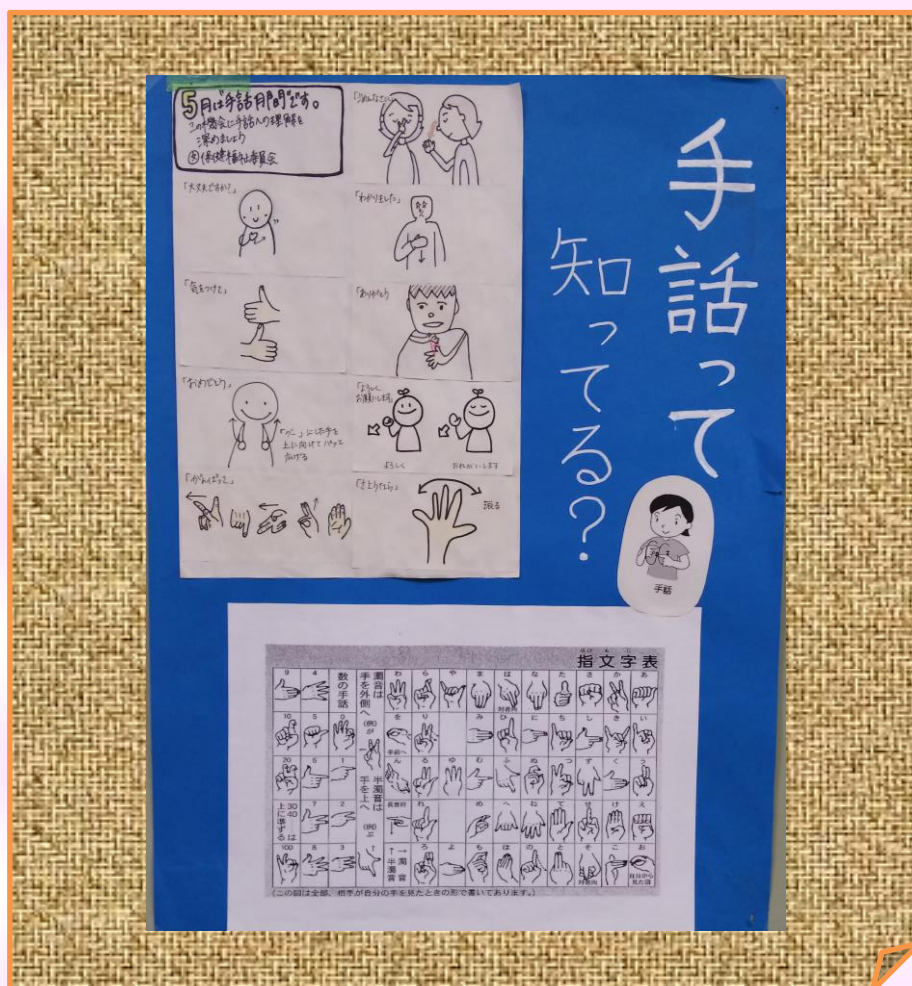




テーマ(活動の目的)：手話を知ろう

- 1 実施回数等 作成回数2回、保健室前常時展示
- 2 対象者 全校生徒
- 3 指導者 養護教諭 山本 礼恵(生徒支援グループ)
- 4 実施内容
  - ・保健福祉委員が昼休みに集まり、手話を調べながら手分けをしてポスターを作成した。
- 5 生徒の感想
  - ・文化祭の準備と重なり時間がなかった。来年はもう少し早く準備を始めたい。
  - ・各クラスに掲示できればよかったと思う。
- 6 その他 <成果・課題>
  - 成果** 生徒が自分で調べ工夫して生徒へ伝えようと努力をしていた。
  - 課題** 委員会活動の一つとして継続的に取り組むことが必要

# 掲示用ポスター



テーマ(活動の目的)： 楽しく世界を広げよう  
 ～手話を覚えてコミュニケーションを豊かに～

1 実施回数 1回(5月1日から5月31日まで)

2 対象者 全校生徒及び教職員

3 指導者(教諭・外部講師等) 学校司書

4 実施内容

- ・図書館入口で写真のような展示を行い、手話に関する本やパンフレットを紹介した。
- また、パンフレットから手話のしおりを作成し、カウンターを訪れた生徒や教職員、出入りの業者に紹介し、手に取ったしおりの手話を一緒に行った。
- ・さらに手話を知りたいような利用者には、司書がネット動画で覚えた手話を教えた。

5 生徒の感想

- ・「『ありがとう』と『よろしくお願いします』だけは覚える」
- ・「『頑張る』って手話、本当に頑張っているみたいで分かり易い」
- ・「ろう者の人は、アナウンスが聞こえないので、電車等が止まっても分からないということが分かった」

6 その他 <成果・課題>

**成果** 手話に対する関心が高まり、展示物やしおりを手に取る生徒がいた。

**課題** 手軽に手に取れるしおりは、手話に興味を持ってもらうのによいツールだったが、もっといろいろな種類があるとよかった。

## 学校図書館の掲示を工夫





生徒福祉委員会によるHRでの「手話を知る・使う」講座

- 1 実施回数 各クラスで2～3回程度
- 2 対象者 福祉委員及び全校生徒
- 3 指導者（教諭・外部講師等） 各担任及び生徒福祉委員会の生徒・福祉委員会担当職員
- 4 実施内容
  - ・昼休みに全クラス参加の福祉委員会を開催し、グループ職員が福祉委員へ手話月間の意義を説明し、学習教材（リーフレット）『手話を楽しく学ぼう！』をもとに、手話の挨拶（「おはよう」「こんにちは」「こんばんは」「さようなら」「わかりました」「ありがとう」「よろしくお願ひします」）を理解させた。
  - その後、各クラス担任と福祉委員が朝及び帰りのHRにおいて、福祉委員が習得した手話をクラスで実演し、クラス全員に習得させるという機会を2～3回設定した。
- 5 生徒の感想
  - ・クラスの生徒の前でやるのは恥ずかしかったが、少しでも伝わるといいなと思った。
- 6 その他 <成果・課題>
 

成果	生徒が実際に手話に親しむよい経験になった。
課題	今後、継続し定着させることが課題である。

テーマ(活動の目的)：手話を学び実践することで、手話に関心を持ち理解を深める。

- 1 実施回数 1回
- 2 対象者 ボランティア委員会の生徒7名
- 3 指導者(教諭・外部講師等)
  - 委員会指導：安藤雄希教諭(広報・特色・地域連携グループ)
  - 外部講師：熊谷徹氏(県聴覚障害者福祉センター施設長)
- 4 実施内容
  - ・施設紹介のDVDを視聴。
  - ・施設見学。
  - ・神奈川県聴覚障害者福祉センターへの見学は毎年行っているが、今回初めて、手話講座をお願いした。
- 5 生徒の感想
  - ・耳が聞こえない人にとって、目での情報量がとても大切であることがわかった。
  - ・東日本大震災で障害者は健常者の2倍も死者数が多い事に驚いた。
  - ・聴覚障害者をサポートする施設や道具は聴覚障害がある方にとってすごく心強いと思う。
  - ・手話で自分の名前を伝えられるようになり、日常挨拶も学ぶことができ勉強になった。
  - ・手話を使っている人の割合(18.5%)が思ったよりも低かったのが印象的だった。
  - ・広報誌を作る時、手話についてイラストを使って紹介するのに苦労した。
- 6 その他 <成果・課題>
  - 成果**・生徒は自分の名前が手話で伝えられる喜びを実感できた。また、手話の成り立ちについて、身近な形などからできていることを理解した。
  - 課題**・自主的に参加した生徒の意識はたかかったが少なかった。事前の広報活動、日頃の福祉委員会の活動を学校内外に広めていきたい。

## 神奈川県聴覚障害者福祉センターで学習



その他

3

山北高等学校

「職員研修で手話を学習」

テーマ(活動の目的)：教職員の手話に対する理解を深め、生徒に簡単な手話を教えらるるようにする。

1 実施回数 1回

2 対象者 教職員

3 指導者 職員4名

4 実施内容

・職員会議にて、神奈川県の手話啓発リーフレット「手話を楽しく学ぼう」を配付した。リーフレットを見ながら挨拶（「おはようございます」「こんにちは」「こんばんは」）、自己紹介の仕方の説明をし、実際に練習をした。また、自己紹介をするときに、指文字で1文字ずつやる方法のほかに、漢字をイメージした伝え方もあることを紹介した。

5 その他 〈成果・課題〉

**成果** 簡単な挨拶の方法や自分の名前を手話で表すことを知るきっかけになった。

**課題** 本校の生徒はほとんど手話を使えないが、コミュニケーションが必要な時に挨拶や名前程度が表現できるように指導をしたい。

## 教職員が教職員に手話を教授



発 行 令和元年6月26日  
編 集 者 神奈川県教育委員会教育局指導部  
          高校教育課長 濱田 啓太郎  
発 行 者 神奈川県教育委員会  
          〒231-8509 横浜市中区日本大通33  
          TEL (045)210-1111 内線8260～65